

## 学校における働き方改革の着実な推進について

令和6年5月24日（金）  
県教育庁働き方改革推進課  
働き方改革班

1

## 学校における働き方改革は、

- どこを目指すのか？
- なぜ、推進するのか？
- どのように、推進するのか？

学校における働き方改革の着実な推進に向けて…

2

### ■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？



### ■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？



#### 「学校における働き方改革」の目指すべき方向性

教職員のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の改善を図ることで教職員の健康を守るとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど、教職員のウェルビーイングを確保するとともに、自らの人間性や創造性を高め、**子供たちに対してより良い教育を行うことができるように**することです。

子どもたちへのより良い教育



学習指導要領前文（平成29、30年改訂）

#### 学習指導要領前文（平成29、30年改訂）

これからの学校には……（略）

**一人一人の児童（生徒）**が、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、あらゆる**他者を価値のある存在として尊重**し、**多様な人々と協働**しながら様々な**社会的変化を乗り越え**、**豊かな人生**を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。

3

4

■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？

子どもたちへのより良い教育を行う

教職員に時間と機会の創出が必要

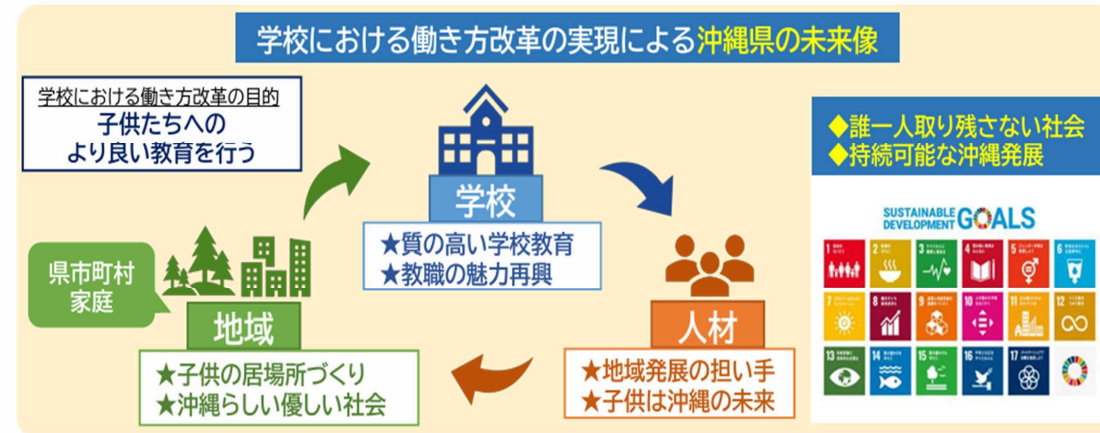
- ✓ 職場での良好な人間関係
- ✓ 児童生徒との信頼関係
- ✓ 安全・快適な職場環境の形成
- ✓ ゆとりある時間
- ✓ 研修や教材研究等の充実
- ✓ 長時間勤務の改善
- ・・・ 等々

★ 教職員が忙しすぎることは、子供たちのためにならない

👉 学校における働き方改革の推進が必要不可欠

■ 学校における働き方改革は、どこを目指すのか？

★ 学校における働き方改革推進により時間と機会が創出  
👉 子供たちへのより良い教育（令和の日本型学校教育）の実現



【本日の流れ】

学校における働き方改革は、

■ どこを目指すのか？

■ なぜ、推進するのか？

■ どのように、推進するのか？

学校における働き方改革の着実な推進に向けて…

■ なぜ、推進するのか？

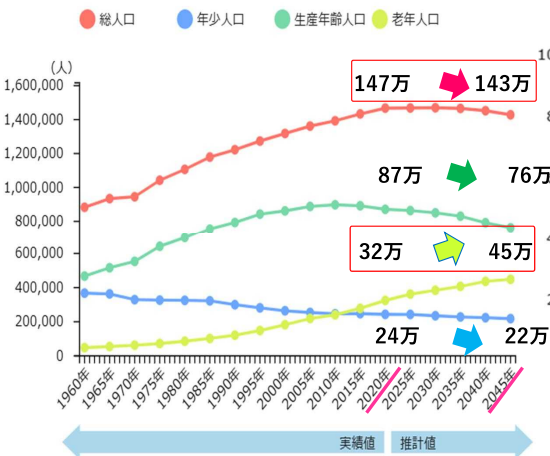
① 人口推移と今後の予測（これから）

■ なぜ、推進するのか？

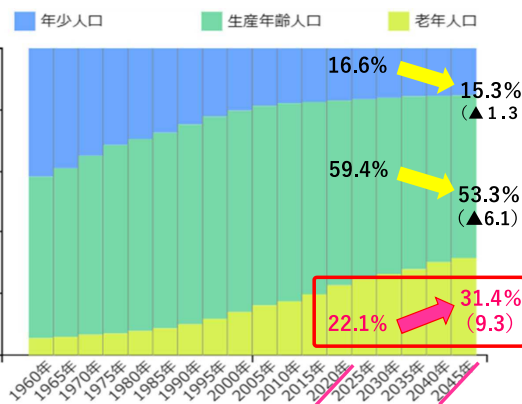
① 人口推移と今後の予測 (これから)

【沖縄県】高年齢率が高くなる 労働人口の減少が課題

◆ 沖縄県の人口推移



◆ 沖縄県の世代別人口割合



RESAS (地域経済分析システム) <https://resas.go.jp/data-analysis-support>

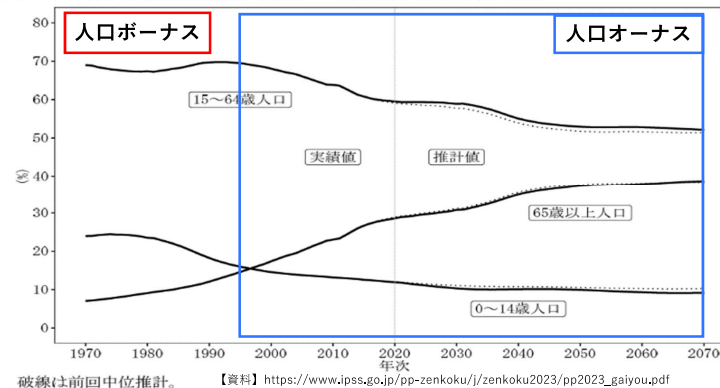
■ なぜ、推進するのか？

① 人口推移と今後の予測 (これから)

● 「日本の将来推計人口 (令和5年推計) 結果」

(国立社会保障・人口問題研究所)

図1-4 年齢3区分別人口割合の推移 —出生中位(死亡中位)推計—



成長社会  
みんな  
一緒に

成熟社会  
それぞれ  
1人1人

- ・なるべく男性が働く
- ・なるべく長時間働く
- ・なるべく同じ条件の人を揃える

- ・なるべく男女ともに働く
- ・なるべく短時間で働く
- ・なるべく違う条件の人をそろえる

■ なぜ、推進するのか？

② 働き方改革の経緯 (これまで)

② 働き方改革の経緯 (これまで)

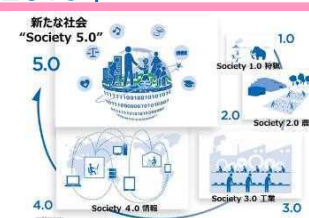
■ なぜ、推進するのか？

2014年 2015年 2016年 2017年

- 第14回産業構造審議会総会 (経済産業省)



【資料】おきなわSDGsアクションプランより抜粋

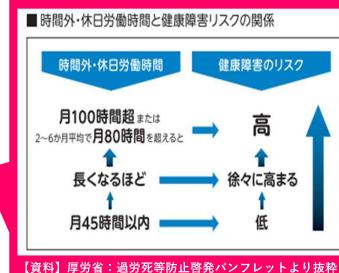


【資料】内閣府HPより抜粋 [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

- 人生100年時代 (人生100年時代構想会議 内閣府)

- 2018年 ● 働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律 (平成30年7月6日公布)

- ・ 時間外労働の上限規制
- ☞ 原則として 月45時間、年360時間



【資料】厚労省：過労死等防止啓発パンフレットより抜粋

さらに教育現場では・・・

2020年 ● WHOが新型コロナウイルス感染症について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言

☞ 感染症法上の位置付けが2類

- ◆ コロナ禍における教育活動
  - ☞ GIGAスクール構想推進の整備が急速に進む
- ◆ 登校が難しい児童生徒への対応
  - ☞ ICTを活用したオンライン授業等が進む

2023年 ● WHOが上記の緊急事態の宣言を終了

☞ 感染症法上の位置付けが5類感染症へ

2022年 ● 民法の一部を改正する法律 (成年年齢関係)

(令和4年4月1日施行)

民法の成年年齢 ☞ 20歳から18歳に引き下げ



<https://www.moj.go.jp/content/001300586.pdf>

2023年 ● 【文部科学省】 第4期教育振興基本計画

- ・ 2040年以降の社会を展望
- ・ マルチステージの人生
- ・ 生涯にわたって学び続ける学習者の育成

- ・ 持続可能な社会の創り手の育成
- ・ 「協調と調和」に基づくウェルビーイングの向上



[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/keikaku/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm)

☞ 学びのアップデートが必要 (学び続ける教職員)

③ 沖縄県の教育現場の状況 (現在)

■ なぜ、推進するのか？

③ 沖縄県の教育現場の状況（現在）

◆ 教員不足

・教員未配置状況（令和6年4月）

校種	人数
小学校	3名
中学校	5名
高等学校	3名
特別支援学校	1名

★教職における魅力の向上

- ✓ 人材発掘・確保・採用
- ✓ 教職の希望者の育成

👉 人材確保と持続可能性（健康を守る勤務環境等）が大切

◆ 業務の多忙化

・時間外勤務80時間以上の教職員

月平均割合 (月平均人数)	R3	R4
市町村立 小・中学校 (285.9人)	2.9%	2.7% (276.3人)
県立学校 (116.6人)	2.0%	2.6% (147.4人)

★長時間勤務の是正

- ✓ 思い切った業務改善
- ✓ メンタルヘルス対策

■ なぜ、推進するのか？

③ 沖縄県の教育現場の状況（現在）

◆『学校における働き方改革アンケート（2023）』の回答状況

小学校	中学校	高等学校	特別支援
✓徴収金の徴収・管理・会計等	✓徴収金の徴収・管理・会計等	✓徴収金の徴収・管理・会計等	✓徴収金の徴収・管理・会計等
✓PTA関連業務（休日や勤務時間外の会議・活動等）	✓PTA関連業務（休日や勤務時間外の会議・活動等）	✓PTA関連業務（休日や勤務時間外の会議・活動等）	✓PTA関連業務（休日や勤務時間外の会議・活動等）
✓各種調査・報告・アンケート等への対応	✓各種調査・報告・アンケート等への対応	✓各種調査・報告・アンケート等への対応	✓各種調査・報告・アンケート等への対応
✓年度始めに実施する全児童の家庭訪問	✓部活動（日々の練習、試合引率や大会運営等）	✓部活動（日々の練習、試合引率や大会運営等）	✓部活動（日々の練習、試合引率や大会運営等）
✓草刈りや花壇の散水等の環境美化作業及び小動物の飼育作業	✓草刈りや花壇の散水等の環境美化作業	✓奨学金申請に係る業務	✓草刈りや花壇の散水等の環境美化作業
✓プールの清掃や教室のフックス掛け等の施設管理・環境整備	✓全国学力・学習状況調査や全県のテスト等の採点・入力作業	✓年度末の高校入試業務	✓トイレの清掃や教室のフックス掛け等の施設管理・環境整備
✓学期毎の通知表（よい子のあゆみ等）の作成や成績処理	✓学期毎の通知表の作成や成績処理	✓生徒指導（身なり指導や動態指導、SNSトラブルの対応等）	✓登下校時の車両誘導・安全管理のための立ち番指導等
✓勤務時間外や校外での生徒指導・保護者対応（SNS177を含む）及び夜間街頭10-4等	✓勤務時間外や校外での生徒指導・保護者対応（SNS177を含む）及び夜間街頭10-4等	✓勤務時間外や校外での生徒指導・保護者対応（SNS177を含む）及び夜間街頭10-4等	✓選案や年間指導計画、通知表等の書類作成
✓教育課程外の地域行事・地区競技会・大会等の参加・運営等	✓教育課程外の地域行事・地区競技会・大会等の参加・運営等	✓情報機器・ネットワーク管理等の対応業務	✓情報機器・ネットワーク管理等の対応業務
✓勤務時間前の登校指導・安全管理や朝の委員会活動等	✓教育課程外の各種検定試験の実施	✓教育課程外の講座や小論文・面接指導、各種検定・模試等の実施	✓校外・校内研修や研究会活動・研究紀要作成

■ なぜ、推進するのか？

③ 沖縄県の教育現場の状況（現在）

◆『学校における働き方改革アンケート（2023）』の回答状況

質問項目「改善または削減が必要と考える業務や制度」の記述回答の結果



👉 勤務環境の改善（魅力ある職場づくり）

- 実施期間  
・令和5年4月～5月
- 実施状況  
・本県公立学校教職員  
16,234名  
・回答数  
7,886件（48.6%）
- 調査方法  
・web調査 記述式回答

〈課題〉  
教員の本来職務である授業 評価 研修に関わる業務も負担と感じる勤務環境の現状  
↓  
本来職務に集中できる勤務環境の改善

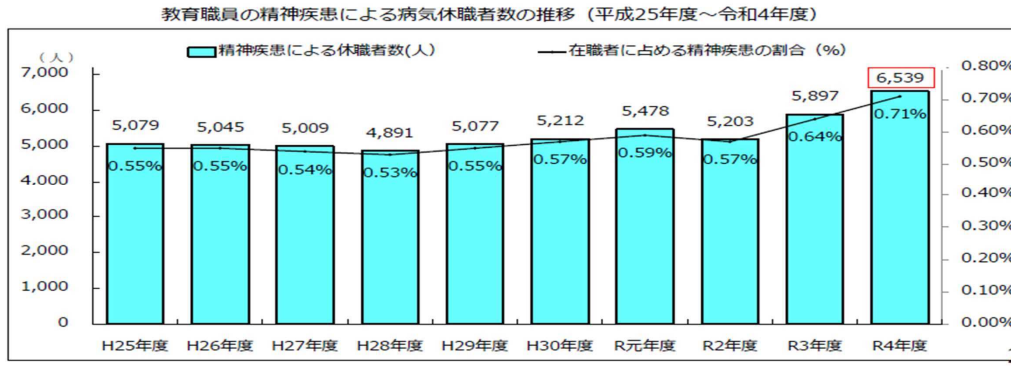
※ユーザーローカル AIテキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）による分析

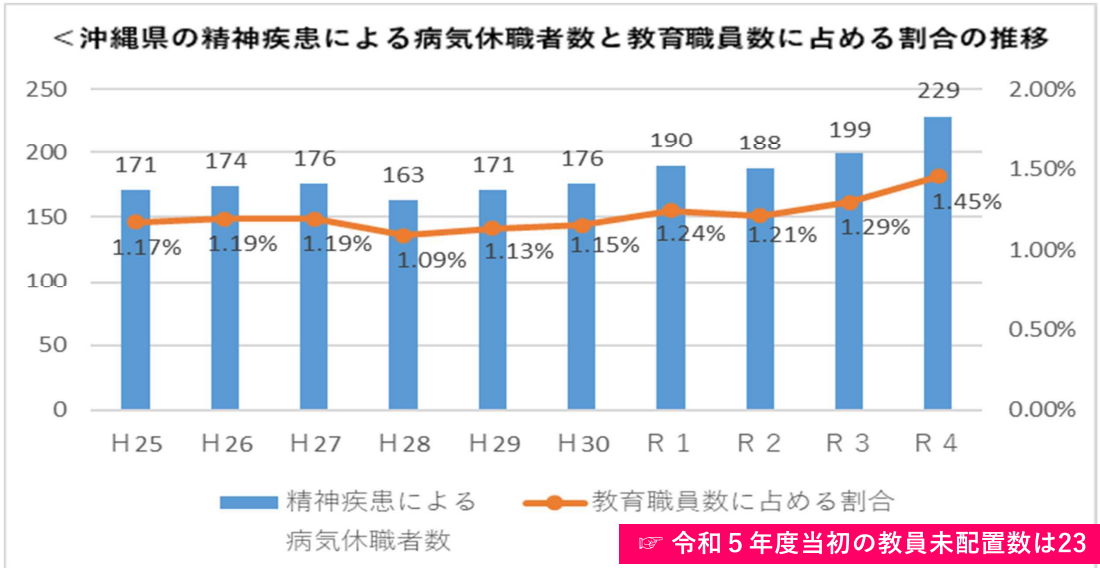
■ なぜ、推進するのか？

③ 沖縄県の教育現場の状況（現在）

教育職員の精神疾患による病気休職者数（令和4年度）

○教育職員（※）の精神疾患による病気休職者数は、6,539人（全教育職員数の0.71%）で、令和3年度（5,897人）から642人増加し、過去最多。  
（※）公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校における校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、講師、養護助教諭、実習助手及び寄宿舎指導員（総計918,987人（令和4年5月1日現在））



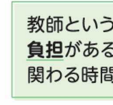


学校からの声 本県の現状『学校における働き方改革アンケート(2023)』より



小学校教諭

念願の教員になり、その仕事は素晴らしいです。子どもに関わることができて幸せです。しかし、仕事が多すぎて、なかなか定時に帰れません。誰も教材研究を無くしてほしいとは言いません。教師として、子どもたちに本当に必要なものを知っているからです。後輩達にもその素晴らしさを伝えられるよう、早急な業務内容の精選をお願いしたいです。



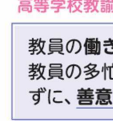
中学校教諭

教師という職業にしかない魅力は多く、素晴らしい職業だと思っています。しかし、その魅力を上回るほどの負担があるように感じています。少しでも多くの業務が改善され、先生方の負担が軽くなり、生徒と向き合い関わる時間が増えることを望んでいます。



高等学校教諭

教職員の本来の業務は授業や生徒の育成であるはずなのに、それ以外の業務の量が多すぎて授業準備・改善に集中できません。1人当たりの業務量を減らすために業務の大幅削減などが早急に必要と感じています。



特別支援学校管理職

教員の働き方改革は、生徒の学習と切れない問題だと思っています。生徒の多様な学びを保障するためには教員の多忙が改善されなければ難しい。人員の増、専門家の活用、地域との連携、どれをとってもお金をかけずに、善意に頼っている間は解決は難しいのではないのでしょうか。

【本日の流れ】

「教職員の厳しい勤務環境の改善」

5年後、10年後の学校は…？

これからも

「教職員が選ばれ続ける職業」

「学校が選ばれ続ける職場」

であるためには？

学校における働き方改革は、

- どこを目指すのか？
- なぜ、推進するのか？
- どのように、推進するのか？

学校における働き方改革の着実な推進に向けて…